

KALI CARBONICUM／サンカラン

Kali-c. はミネラルレメディであり、Sycotic マヤズムに属する。Kali-c. の中心テーマは、家族や仲間の援助を得られない (Kali) 人にみられる活発な恐怖や反応性 (Carbo) である。

Kali-c. の主症状は独りでいるときに生じる恐怖感と仲間を求めるということである。Kali-c. の女性は、ひとりになると凄まじい恐怖や不安が生じる。一人にならないために仲間や家族の一員であることに意を使う。この不安はあらゆるところにみられる。たとえば・・

—Frightened at trifles: ちょっとしたことで驚き恐れる。

—Fear of being alone: 独りでいることを恐れる。

—Startled easily, from noise, from touch: ノイズやタッチですぐにギョッとする。

—Dreams of ghosts, of danger, of robbers, of falling from a height, of frightful figures: 幽霊、危険な事、強盗、高いところから落ちる、恐ろしいもの、の夢。

人の援助を求めるということは以下のようなものとしてみられる。

—Carried, desires to be: 抱かれることを欲する。

—Rocking ameliorates: 揺られていると好転。

—Shrieking for aid: 叫んで助けを求める。

グループや家族に強く依存しているために、彼女の全生活には家族という事が関わってくることとなる一家族の誰かの健康、家族の一体性、自分が家族からどんな援助を得られるか、等々。

自分の子供が病気になると不安に襲われたり、あるいは子供が試験でうまくいかないと苛立ってやきもきする。同じく、夫が自分のことを十分にサポートしてくれないと、苛立ちけんか腰になり、“Shrieking at trifles: ちょっとしたことでブルブルと震える” というルブリクスで示されるように口やかましい女性になる。

“Dreams of dead relatives: 死んだ家族の夢” というルブリクスは、家族に対する Kali-c. の極端な関心を示している。Kali-c. の大きな悪化要因のひとつは家族のメンバー特に自分をサポートしてくれているメンバーの病気である。自分が必要としている援助が得られないと見捨てられたような感じになる。このことによって、非常に苛立って、怒りっぽくけんか腰になり、ちょっとしたことで金切り声をあげる— “死んだ人や死んだ家族と喧嘩する夢。まるでその人が生きていて自分と喧嘩しているかのように感じる” (Allen's Encyclopedia)

—Company, desires for, but treats them outrageously: 仲間を求める。しかしその人達にひどい扱いをする。

この症状には Kali-c. の三つの主要な構成要素が組み合わさっている。ひとつは仲間を求めるということ：仲間を求めそれに依存する：ひとりになると状態が悪化し、援助が必要でいつも自分を援助してくれる人いることを好む。第二の要素はその援助してくれる人に対して非道い扱いをするということであり、これは自分が依存している人に対して常になにかしら不満を抱いているということの意味する。第三の要素はけんか腰であるということ：不満があるとじっとしていることができず、喧嘩をふっかけてしまう。ゆえに Phatak のマテリアメディカには以下の文がある。

- Quarrels with his family and：家族との喧嘩。そして
- Quarrels with his bread and butter：日々の糧のことで喧嘩。

クリニックでは Kali-c. は非常に誠実な患者であり、定期的にフォローアップに来院し、長期に亘って一人の医者診療を受ける。しかし、患者が医者を家族の一員と見なし始めると問題が持ち上がる。そして、Kali-c. は本当に医者に依存してしまう。決してその医者の元から離れない。しかし、患者は来院するたびにいざこざを起こし自分が調子が良くないと訴える。

Kali-c. は大声で話し、進行状態について苛立ちを示す。まるで医者が十分に自分に注意を向けておらず援助をしてきていないかのように非常に口やかましく小言を述べる。自分自身の責任を逃れるために—それは彼らの状態の原因、つまり自分をほったらかしにして無責任な配偶者、に似ているのだが—ひどく依存的でいつも気むずかしくひねくれた態度をとることで医者の気を引こうとするのである。しばしば Kali-c. は家族の者を治療させるためにクリニックにつれてくる。

Kali-c. に特有なのは、家族や夫とは喧嘩をするが外部の人間とはそれほどめめないということである。(不幸なことに医者はのぞく)。

喧嘩した後、非常に涙を流す。“Weeping, when telling of her sickness：自分の病気を話していて泣く”。そして、もっと哀れな状態になって懇願したり何かを切々と訴えたりする。援助を求める努力が失敗に終わると “Indifferenc when in society：社会的に無関心” で “Averse to husband, to members of family：夫や家族を嫌う” という状態になり、“Disgust：嫌悪感” “Hatred：憎しみ” を示し “Sulky：拗ねた” “Repulsive：よそよそしい” 状態になる。

Kali-c. の Sycotic な側面というのは “私は非常に弱く援助してもらいが必要であり、家族という仲間を必要とする” というフィーリングにみられるだろう。ここで毛瘡の Medorrhinum と比較してみると、両者は多くのルブリクスに共通して挙げられている。

身体症状

私が扱った Kali-c. のパーソナリティの人に見られた身体症状は・・

- Weakness in back, >lying flat on back：背中に弱々しさがある。背中を真っ直ぐにして横になると好転。
- Profuse perspiration all over the body, especially on the upper lip：全身、

特に上唇の大量の発汗。

- Desires sweets : 甘い物を欲する。
- Intolerance to cold : 寒さに耐えられない。
- Breathlessness that makes her sit bent forwards : 息苦しくて前屈みにある。
- Aggravates at 3:00 a.m. : 午前3時に悪化。

ルブリクス

—Company, desires for, alone, aggravataes, while : 仲間を求め、一人でいると状態が悪化する。

—Company, desires for, treats them outrageously, yet : 仲間を求めるが、しかしその人に非道い扱いをする。

- Discontented, everything, with : 全てに不満足。
- Impatience, children, about his : 子供のことで苛立つ。
- Shrieking, trifles, at : ちょっとしたことで震える。
- Starting, easily : すぐにギョツとする。
- Starting, fright from and as from : 驚きからビクツとする。
- Weeping, telling of her sickness, when : 病のことを話して泣く。

Kent

- Vertigo from hunger : 空腹から目眩がする。
- Perspiration upper lip : 上唇の汗。
- Perspiration, external throat : 喉のところの汗。
- Respiration difficult: 3:00 a.m. : 午前3時に呼吸困難に。
- Mamae before menses : 生理前の乳房。

Phatak

- Never well since pneumonia : 肺炎以来よくならない。
- Fingers, wrong with, using aggaravates : 指に関わる故障。指を使うと悪化。
- Quarrelsome with himself and his family : 自分自身そして家族との喧嘩。
- Soles painful : 足の裏が痛む。